

作成日 2016年 6月 1日

改訂日 2024年 1月 26日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	サクシヨンクリーナー
供給者の会社名称	株式会社 東京技研
住 所	東京都世田谷区玉堤 1-25-13
電話番号	03-3703-5581
FAX 番号	03-3705-1760
緊急連絡電話番号	03-3703-5581
推奨用途	セントラルサクシヨン用洗剤
使用上の制限	他の洗剤と併用しないこと
整理番号	TGYA1-07A-24007

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類	
物理化学的危険性	分類できない又は、区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない（分類対象外）
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境急性毒性	区分 1
水生環境慢性毒性	区分 1
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語
危険有害性情報

危険
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること
取扱い後は手指をよく洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護マスク等の適切な保護具を着用すること。

[応急措置]

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当を受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当を受けること。
汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

人の健康に対する有害な影響

皮膚に触れた場合、強い刺激作用があり、処置が遅れると皮膚が侵され熱傷に至る。
低濃度でも水の蒸発により、同様の症状を起こす。
眼に入った場合、激しい痛みを感じ、処置が遅れるとその程度によって結膜や角膜が侵され視力低下あるいは失明にいたる。
飲み込んだ場合、口腔、食道、胃部の灼熱感がある。濃い液を多量に飲み込んだ場合、処置が遅れると生命にかかわる。
ミストを吸入すると気道粘膜を刺激し、その程度によってしわがれ声、咽喉部の灼熱感、激しい咳、肺浮腫を生じる。
酸と反応して発生した塩素ガスが目や皮膚に接触すると炎症を起こす。また、吸入すると呼吸困難となり、多量に吸入した場合は生命にかかわる。

環境への影響

環境に排出されると分解されるが、原液または濃度の高い溶液が大量に流出した場合は、水生生物に対して影響を及ぼす。

物理的および化学的危険性

酸性物質と反応し有毒な塩素ガスを発生する。また、アルコールとも同様な現象が起きる可能性がある。

酸素系漂白剤と反応して、有毒なガスが発生する恐れがある。

金属類、天然繊維類を腐食する場合がある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
組成及び成分情報	次亜塩素酸ナトリウム、水酸化ナトリウム、その他

4. 応急措置

吸入した場合	万一有毒な塩素ガスを吸い込んだ時は、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所へ移動して安静にし、直ちに医師の処置を受ける。 ミストを吸い込んだ時は、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所へ移動して安静にする。
皮膚に付着した場合	何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診断を受ける。 直ちに多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。 衣類や靴などに付いた時は、直ちに脱ぎ皮膚を多量の水でぬめり感がなくなるまで十分に洗い流す。
眼に入った場合	何らかの異常を感じた時は、直ちに医師の診断を受ける。 直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すし、洗浄を続ける。その後、直ちに医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合	直ちに口の中を洗浄し、意識がある場合はコップ1~2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。但し、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。
その他	使用中、眼にしみたり、咳き込んだり、気分が悪くなった時は、直ちに使用をやめてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品またはSDSを持参する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水、粉末、泡、二酸化炭素などの一般消火器が使用できる。
使ってはならない消火剤	情報なし
消火方法	本製品は不燃性であるが、周辺火災の場合は速やかに安全な場所へ移す。 移動できない場合は、風上より容器周囲に散水して冷却する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業には必ず保護具（手袋、マスク、メガネ等）を着用する。
------------	------------------------------

環境に対する注意事項
除去方法

多量の場合は人を安全な場所に退避させる。
必要に応じた換気を確保する。
漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
周囲の人を避難させる。
漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立入りを禁止する。
スクイジーなどを用いて出来る限り空容器などに回収する。
回収した跡、または回収できないものは、多量の水にて十分に洗い流す。
洗浄水は還元剤（チオ硫酸ナトリウム）を用いて還元処理をしてから排出する。
酸による中和は、有害な塩素ガスを発生させるので、絶対に行なってはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 作業時は必ず保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴などの保護具を着用する。
体調の悪い時は使用しない。
特有の臭気を有しているため、作業中の換気に注意する。
キャップを開けるときに液が飛び出すことがあるので注意する。また、容器を移動する時はキャップをしっかりと閉める。緩んでいると液が跳ねて目や皮膚に付くことがある。
洗浄に供する際、他の薬剤・洗浄剤などとは絶対に混ぜたり併用したりしない。
他の容器に移し替えないこと。
用途以外には絶対使用しない。
原液では使用せず、必ず水で希釈して使用する。温水や熱湯では希釈しない。
金属類、他の薬剤・洗浄剤などの混入は絶対に避ける。
一部を除く金属に対する腐食性が強いので、貯槽などは樹脂製のものを使用する。ゴム製のものは長時間使用すると膨潤するものもあるので注意する。
使い終わった容器は、よく洗ってから処理する。

保管 直射日光のあたる場所、高温多湿な場所を避けて密閉して保管する。
酸性物質と同じ場所に保管しない。
子供の手の届かないところに保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 ミストや蒸気が滞留しないように、局所排気装置及び全体換気装置を設置する。
取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

管理濃度 設定されていない

許容濃度 設定されていない

保護具

呼吸用保護具 保護マスク等の呼吸用保護具を着用する。

手の保護具 保護手袋を着用する。

眼の保護具 ゴーグル型または全面保護メガネを着用する。

皮膚及び身体の保護具 保護衣、保護靴等を着用する。
衛生対策 取扱い後は手をよく洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	黄色透明
臭い	塩素臭
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	情報なし
引火点	情報なし
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	12.5～13.5（原液/25°C、製造時）
動粘性率	情報なし
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
有効塩素	3.0～3.2%（製造時）

10. 安定性及び反応性

安定性	常温下でも徐々に分解して有効塩素が低下していくが、高温下・射光下では分解が促進される。一部を除く金属、あるいは有機性物質との共存下では不安定であり、分解が加速される。
反応性	酸性物質と反応し有毒な塩素ガスを発生する。また、アルコールとも同様の現象が起こる可能性がある。 酸素系漂白剤と反応し、有毒なガスが発生する恐れがある。 一部を除く金属に対して強い腐食性を有する。
避けるべき条件	酸性物質、アルコール、酸素系漂白剤との接触、40°C以上の高温下での保管、直射日光下、開放状態、一部を除く金属または有機性物質との共存、他の薬剤・洗浄剤との共存。
危険有害な分解生成物	酸性物質との反応により発生する塩素ガス

11. 有害性情報

有害性情報（人についての症例、疫学的情報を含む）	
急性毒性（経口）	情報なし

急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：気体）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回曝露）	区分3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性（反復曝露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし
吸引性呼吸器有害性	情報なし

12. 環境影響情報

水性環境有害性 短期（急性）	区分1
水生環境有害性 長期（慢性）	区分1
生態毒性	情報なし
残留性／分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	少量の場合は、水で希釈してからチオ硫酸ナトリウムなどを加えて還元処理した後、排出する。直接酸で中和すると、有毒な塩素ガスが発生するので絶対に行なわない。 廃棄処理する際は、保護具を着用する。 多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理委託業者にて委託処理する。
汚染容器及び包装	使い終わった容器は、残留物の有無を確かめた上で、水でよく洗ってから各自治体の指定する方法で処理をすること。

14. 輸送上の注意

国連分類	クラス8（腐食性物質）
国連番号	1791
指針番号	154
容器等級	Ⅲ
国内規制	次の輸送に関する国内法規制に該当するので、定められている輸送方法に従う。

危険物船舶運送及び貯蔵規制
海洋汚染及び海上火災の防止に関する法律
航空法
港則法

輸送の特定の安全対策及び条件

輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。
荷役作業は丁寧にしない、容器を破損しないように取扱う。
酸と接触すると有毒な塩素ガスが発生するので、積載に当たっては酸性物質との混載は避ける。
転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。
直射日光下での輸送は避ける。
水濡れを避ける。

15. 適用法令

労働安全衛生法	該当しない
化学物質管理促進法（P R T R法）	該当しない
消防法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
危険物船舶輸送及び貯蔵規則	該当する 腐食性物質（第3条告示別表第1）
海洋汚染及び海上火災の防止に関する法律	該当する 施行令別表第1 有害液体物質 Y 類物質 （131）次亜塩素酸ナトリウム（15%以下） （162）水酸化ナトリウム溶液
航空法	該当する 腐食性物質（施行規則 194 条告知別表第1）
港則法	該当する 腐食性物質（施行規則 12 条危険物）

16. その他の情報

引用文献	JIS Z 7252 : 2019/GHS に基づく化学品の分類方法 JIS Z 7253 : 2019/GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 14705 の化学商品 [化学工業日報社] 化学品安全管理データブック [化学工業日報社] 化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS） [化学工業日報社] 家庭用消費者製品における GHS 実施ガイダンス [日本石鹼洗剤工業会]
------	--

危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意してください。
記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも完全性・安全性や信憑性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・

用法に適した安全対策を実施の上で御使用ください。当製品安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。